

文化的公共公益施設の集客力を用いた中心市街地活性に関する考察

早稲田大学大学院 学生会員 金丸 健司
早稲田大学理工学部 フェロー 中川 義英

1. はじめに

今日、規模を問わず全国の多くの都市において、旧市街地・中心市街地と言われる地区の衰退、人口の流出減少が甚だしくなりつつある。原因としては郊外型商業施設が増加したことをはじめとして、手狭な中心市街地に対して、車社会に対応している郊外は魅力的であり、対照的に中心市街地の魅力が薄くなったことなどが言われている。また、高度成長期に市街地の拡大こそがその都市の発展につながると考えられ、従来都心にあった公営住宅や、大学、病院などの施設を郊外に移転させたことも原因と考えられる。その際、県庁、市役所、そして大きな集客力を誇る文化的な公共公益施設など、本来中心地にあるべく施設を郊外に移転させたことも問題であったと考えられる。公共公益施設の郊外移転は中心市街地衰退に少なからず影響を与えた政策だったと考えられる。現在、中心市街地に人を呼び戻すための様々な方策が多くの自治体で思案されているが、多くのものは、商店街活性化など商業に着目したものとなっている。しかしながら商店街の活性化などによる集客は、現代人の購買スタイルが大きく変化し、また今後も変化し続けることを考慮すると、それほど期待できるとは考えられにくい。それに対して、総合的な環境が整備され、より利用されやすい中心市街地地区整備事業を進める上で、文化的な公共施設をはじめとする、集客力を期待できる公共施設を核として中心市街地活性化を進めていくことがひとつの方策として考えられる。本研究では、既に中心市街地地区に文化的公共公益施設を多く設置してきた都市などを例に取りながら、図書館、美術館をはじめとする、公共施設を核とした活性化の可能性を検証するとともに、文化的な公共公益施設を用いた中心市街地活性化方策を提案する。

2 調査対象とした都市と公共施設並びにその現況

本研究では、まず、名古屋を中心都市とする中京圏に位置する三重県桑名市を例にとって図書館をはじめとして各種公共公益施設の立地状況による集客力の違いの確認を行った。図1には桑名市の市街地地区に立地する各種公共施設の利用状況を、表1には駅前並びにその至近の商店街における、日あたりの歩行者数を示した。これらより、近年、車社会と購買スタイルの変化により、中心市街地地区での歩行者数が激減していることが分かる。一方、各種公共施設の利用状況からみられる集客力については、若干の変動はあるものの、コンスタントな値を示しており、激増、激減現象はそれほど見られない。

表1 桑名市中心市街地地区1日あたり歩行者交通量

曜日		平日			休日		
地点名		S55	S60	H9	S55	S60	H9
駅前	桑栄メイト(駅改札前)	6,409	6,788	6,852	8,306	8,044	8,022
	いずみや前	4,963	5,912	2,024	10,234	10,478	1,712
	くわしん前	6,353	4,668	2,464	10,218	7,758	1,810
	松岡電気前	5,351	4,700	3,394	7,869	5,442	2,432
商店街	日永屋前	3,254	3,110	1,846	3,501	2,740	1,814
	近藤陶器前	2,946	2,968	1,610	3,283	2,324	1,712
	笹治本店前	1,067	1,076	526	862	760	334

Keywords： 文化的公共公益施設、中心市街地

連絡先：〒169-8555 東京都新宿区大久保 3-4-1 51-15-11 TEL03-5286-3398 FAX03-5272-9975

また、桑名市と同様に、中部圏に位置する都市の中で愛知県半田市・岡崎市という、多くの公共施設を保有し、さらにそれら施設の立地位置が市街から郊外まで幅広い設置の仕方をされている都市と、愛知県刈谷市・春日井市のように中心市街地地区に公共公益施設を多く配置している都市の施設を例に、状況の把握を行った。表2に各施設の利用状況を示す。

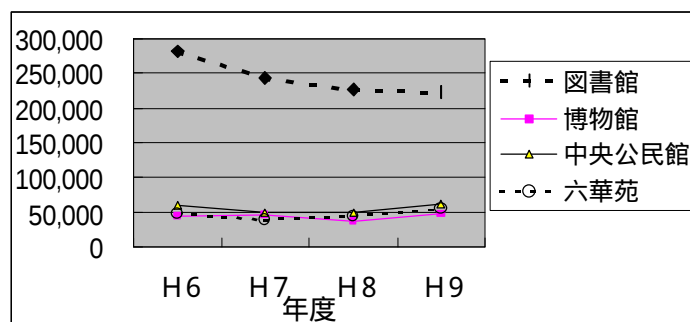


図1 桑名市公共施設利用状況 (図書館は貸出冊数)

表2 半田・岡崎・刈谷・春日井市主要公共施設利用状況

施設名	立地位置	利用状況 (図書館は貸出冊数)				
		H6	H7	H8	H9	平均
半田市図書館	郊外	609,904	731,924	744,157	767,172	713,289
半田市新美南吉記念館	郊外	101,209	84,839	67,976	55,881	77,476
半田市博物館	郊外	118,441	128,617	127,319	114,787	122,291
春日井市図書館総合	市街	221,687	218,726	223,331	226,414	222,540
岡崎市図書館	市街	952,393	888,495	893,371	925,187	914,862
刈谷市図書館	市街	652,202	781,048	794,097	778,988	751,584
刈谷市美術館	市街	102,173	105,663	94,773	46,404	87,253
岡崎市美術館	市街	122,152	110,086	111,042	110,450	113,433
岡崎市美術博物館	郊外	-	-	52,735	70,838	61,787

3 数値から見られる集客力の検討

利用状況からは次のような事を把握することができる。桑名市の例に見るように、商店街周辺の歩行者が激減するような状況下においても、文化的な公共公益施設ではそれほど利用者の変動が見られない。また、本研究で調査した各市の施設の利用状況から見ると、図書館のような子どもから大人まで幅広い年齢層の利用者を対象としている施設では、立地位置が市街であれ郊外であれ、多くの場合、必ずしも増加傾向ではないもののコンスタントに集客力を確保しているといえた。また、美術館や博物館の類の施設については、立地位置が交通弱者の利用が困難な郊外になる場合は、集客力が劣るものの、市街地内においてはある程度コンスタントな集客力を維持していることが見られた。

4 まとめ

文化的な公共公益施設の中でも、図書館のように幅広い年齢層の人に利用されやすい施設については、立地位置が市街であれ郊外であれ、コンスタントな集客力を誇っていることが確認できた。また美術館、博物館については、立地位置が郊外になる場合は、やや集客力に劣りが見られるものの、市街地内に立地している場合では、ある程度の集客力を維持していることが見受けられた。

このようなことから、中心市街地への文化的な公共公益施設の配置は、中心市街への誘客に十分活用できるものであると考えられる。また美術館等については中心市街地地区に位置することで、施設としての利用者増を達成すると同時にその地区への集客もできるという相乗効果を期待できることが考えられる。

参考文献

- 1) 江口賢一：図書館を核ににぎわいの場所を創出、日経地域情報 No310 pp15-18
- 2) 岩本 直：中心市街地活性化法に基づく基本計画の策定内容に関する研究 土木計画学研究・講演集22(2) pp475-478
- 3) 半田市：第5次半田市総合計画 Hand Ship 2010
- 4) 桑名市産業振興部：桑名の現況 平成10年度版
- 5) 刈谷市：刈谷の統計 平成10年度版
- 6) 春日井市：春日井市統計書 平成10年度版